

イチゴ最盛迎える JA伊勢・糖酸バランス上々



タブレット端末に集計された出荷数量などを確認しながら検品作業するJA職員

【三重・伊勢】JA伊勢でイチゴの出荷が最盛期を迎えた。1月24日にはJA小俣集荷場で、JA職員らが出荷されたイチゴを検品する作業に追われた。本年度産イチゴは、夏の高温の影響が心配されたが、糖度と酸味のバランスが良い、おいしいイチゴに仕上が

っている。同JAは昨年度から、イチゴの荷受情報を入力業務などのデジタル化を進めた。出荷数量などの出荷情報の集計を自動的に行えるようにして、出荷伝票の入力・集計作業の効率化を実現した。市場入荷の前日までに、おおよその出荷数量・等

階級が確定するため、取引先との価格交渉が優位になった。同JAでは、組合員87人が約13畝で「章姫」「かおり野」「紅ほっぺ」「レッドパール」などを栽培・出荷する。出荷は5月中旬まで続き、数量は約150万箱を見込んでい